

‡ 地域振興＜6次産業化認定者の取組事例＞10 ‡

世界に通じるワインで地域に人を呼び込む複合型ワイナリー！ 株式会社 NIKI Hills ヴィレッジ

北海道農政事務所生産経営産業部事業支援課 さがわ ゆうき 佐川 裕基



1. 冒険家2人によるワイナリーへのチャレンジ

余市郡仁木町旭台の丘の上にある株式会社 NIKI Hills ヴィレッジ(代表取締役石川和則氏)は、平成27年7月に「仁木町と周辺地域の果樹(ブドウ)を原料とした地元産ワインの生産・販売事業」の6次産業化総合化事業計画認定を取得し、株式会社農林漁業成長産業化支援機構(A-FIVE)からの出資を受け事業化を進め、今年7月7日、敷地面積28haを超える広大なワイナリーのグランドオープンを迎えました(写真1)。



写真1 NIKI Hills ヴィレッジの外観

はじめは、総合広告事業を全国展開する企業の代表取締役である石川さんが、研修施設の候補地を探しに仁木町へ訪れた際に、その景色と町長の町づくりへの思いに惚れ込んだことがきっかけとなり、地域活性化とワイナリー建設の構想が膨らんだことです。

そして、冒険家でもある石川さんがワイナリーの総支配人として迎え入れたのは、平成2年に世界初の犬ぞりによる南極大陸横断を果たした舟津圭三さんです。北極点ツアーの船上で知り合った2人が、ゼロからの挑戦として、ワイナリー事業へ乗り出すことになりました。

2. 世界的な評価を受けるワイン造り

醸造所については平成27年10月に開設しましたが、仁木町から紹介されたワイナリーの建設地は、後継者がなく耕作放棄地やそれに近い状態の土地だったため、ぶどうを植えられるようになるまで1年を費やしました(写真2)。



写真2 ラウンジからの景色

このため、当初は余市町の契約農家から白ワイン用ドイツ系品種「ケルナー」を仕入れ、醸造していました。これを「HATSUYUKI」と名付けます。このワインは、すっきりとし

た香りと程よい酸味が特徴であり、国産ぶどうを 100%使用して作られたワインを対象とする「Japan Wine Competition2017」に出品したところ、726 品の応募の中から、欧州系品種の白ワイン部門で銀賞を受賞するなど、高い評価を受けました。

その後も「International Wine Challenge (IWC) 2019」など国内外の権威あるコンクールで賞を獲得するなど、輝かしい成果を収めました。が、世界に通用する高品質なワインを製造するためには、一層の技術向上が重要であると考え、醸造責任者は毎年、季節が日本と真逆となるニュージーランド、オーストラリアのワイナリーで醸造を学び、その結果が、NIKI Hills ワインの更なる質的向上へとつながっています。

今秋には、自社で栽培しているケルナー、シャルドネが初めて収穫され、待望の自社畑のぶどうのみを使ったワインを初醸造する予定で、製造見込み 4,000 本程度の貴重なワインとなります。その他にも、赤の主流となるピノ・ノワールをはじめとして、メルローやカベルネ・フラン、シラーなど、また白は、ピノ・グリやピノ・ブラン、リースリングなどの品種も栽培しており、今後、ワインの種類と幅が益々広がっていくことが大いに楽しみです (写真 3)。



写真 3 NIKI Hills ヴィレッジのワイン

3. 地域の食や自然の楽しみ方を提供

仁木町と隣接する余市町は、豊かな自然に恵まれており、特にさくらんぼ、りんご、ぶどうなど果樹の生産が盛んな地域です。ワイナリー内に、近々開設予定のレストランでは、新たにシェフを招き、フレンチや和をベースにした地元の食材を活かした創作料理をワインとともに提供し、希望者には地下のワイン樽庫に隣接された空間での特別な食事プランも用意されています (写真 4)。



写真 4 ラウンジの内観

ワイナリーの敷地内には、四季折々の風景を活かした 800 種類もの草花が彩る「ナチュラルガーデン」や、野鳥・動植物などが生態を織りなす自然な森づくりを目指した「ナチュラルフォレスト」など、癒しと安らぎの空間が広がります。ガーデンや森の整備にはたくさんの手間を費やしますが、それぞれのスタッフが常時維持管理を行い、今後は、自然を楽しむガーデンや森での体験プログラムも企画し、「訪れた人に自然を楽しみ、心からリラックスして、ゆっくりとしたひとときを過ごしてもらいたい。」と総支配人の舟津さんは語ります。

一日では楽しみきれないという方々のために、現在は一般オープンには至っていませんが、将来的には併設する宿泊施設でより多くの人が滞在できるスタイルを考えているそうです。

4. 地域の活性化を促す農業の新しい未来

NIKI Hills ヴィレッジは地域資源であるぶどうに着目し、世界に打ち出せるワインをブランディングしています。このワインが国内外の権威あるコンクールで賞を獲得することにより、NIKI Hills の国際的な認知度が高まるとともに、仁木町のワイン、ぶどうが世界に通用することが実証されていくことでしょう。

仁木町と余市町は内閣府からワイン特区

として認められ、最低製造数量基準が適用されずに酒類製造免許を取得することなどが可能です。すでにこの地域は、約 20 件のワイナリーが点在し、日本を代表するワインの生産地として地域の活性化を見せています。

ワインツーリズムとして地域の良さを世界へと発信し、その楽しさを伝えるための様々な魅力を盛り込んだ NIKI Hills ヴィレッジは、地域を代表する新たな食と観光のスポットとして未来に発展していきます。